

中央学院大学陸上競技部 選手リスト

選手名	学部	出身地	出身高校	選手名	学部	出身地	出身高校
4年				2年			
主将 奥村 雄大	商学部	大分県	竹田商業高等学校	杉本 芳規	商学部	兵庫県	兵庫工業高等学校
副将 河南 耕二	商学部	兵庫県	神崎高等学校	蔭山 浩司	商学部	兵庫県	神港学園高等学校
寮長 渡邊 祐介	法学部	千葉県	中央学院高等学校	信田 雄一	商学部	千葉県	拓大紅陵高等学校
大西 亮輔	商学部	兵庫県	西脇工業高等学校	梅田 将一	商学部	栃木県	那須拓陽高等学校
小高 優	法学部	栃木県	那須拓陽高等学校	江藤 裕也	商学部	兵庫県	報徳学園高等学校
齊藤 伴和	商学部	群馬県	東農大二高等学校	和平 憲英	商学部	兵庫県	兵庫工業高等学校
石淵 浩次	商学部	新潟県	羽茂高等学校	千葉 敬弘	商学部	栃木県	那須拓陽高等学校
主務 堀 立身	商学部	富山県	高岡向陵高等学校	1年			
3年				天野 達也	商学部	兵庫県	報徳学園高等学校
中東 亨介	商学部	大阪府	大阪学院高等学校	池田 智計	商学部	兵庫県	須磨友が丘高等学校
石田 直之	商学部	千葉県	東金商業高等学校	井上 正之	商学部	愛媛県	八幡浜高等学校
畠山 卓哉	商学部	秋田県	花輪高等学校	大塲 隆紀	商学部	埼玉県	飯能高等学校
小宮 祐介	商学部	栃木県	作新学院高等学校	大平 剛士	商学部	大分県	大分商業高等学校
加藤 貴之	商学部	群馬県	前橋育英高等学校	各和 芳幸	商学部	栃木県	作新学院高等学校
				塩谷 崇	商学部	兵庫県	伊川谷北高等学校
				高山 拓郎	商学部	大分県	竹田高等学校
				田中 康二	商学部	広島県	如水館高等学校
				中村 充	商学部	大分県	鶴崎工業高等学校
				畠山 善孝	商学部	宮城県	仙台育英高等学校
				林 翔吾	商学部	千葉県	流山南高等学校
				鮒子田 祐介	商学部	大分県	大分雄城台高等学校
				星野 雄介	法学部	神奈川県	市立横須賀高等学校

中央学院大学記録

種目	記録	選手名
800m	1'51"67	藤原 孝行
1500m	3'51"89	青木 栄
5000m	13'56"98	川村 希全
10000m	28'31"14	福山 良祐
3000mSC	8'45"08	町田 次雄
20km	59'54"	福山 良祐
ハーフマラソン	1:02'44"	河南 耕二
マラソン	2:17'19"	平野 進

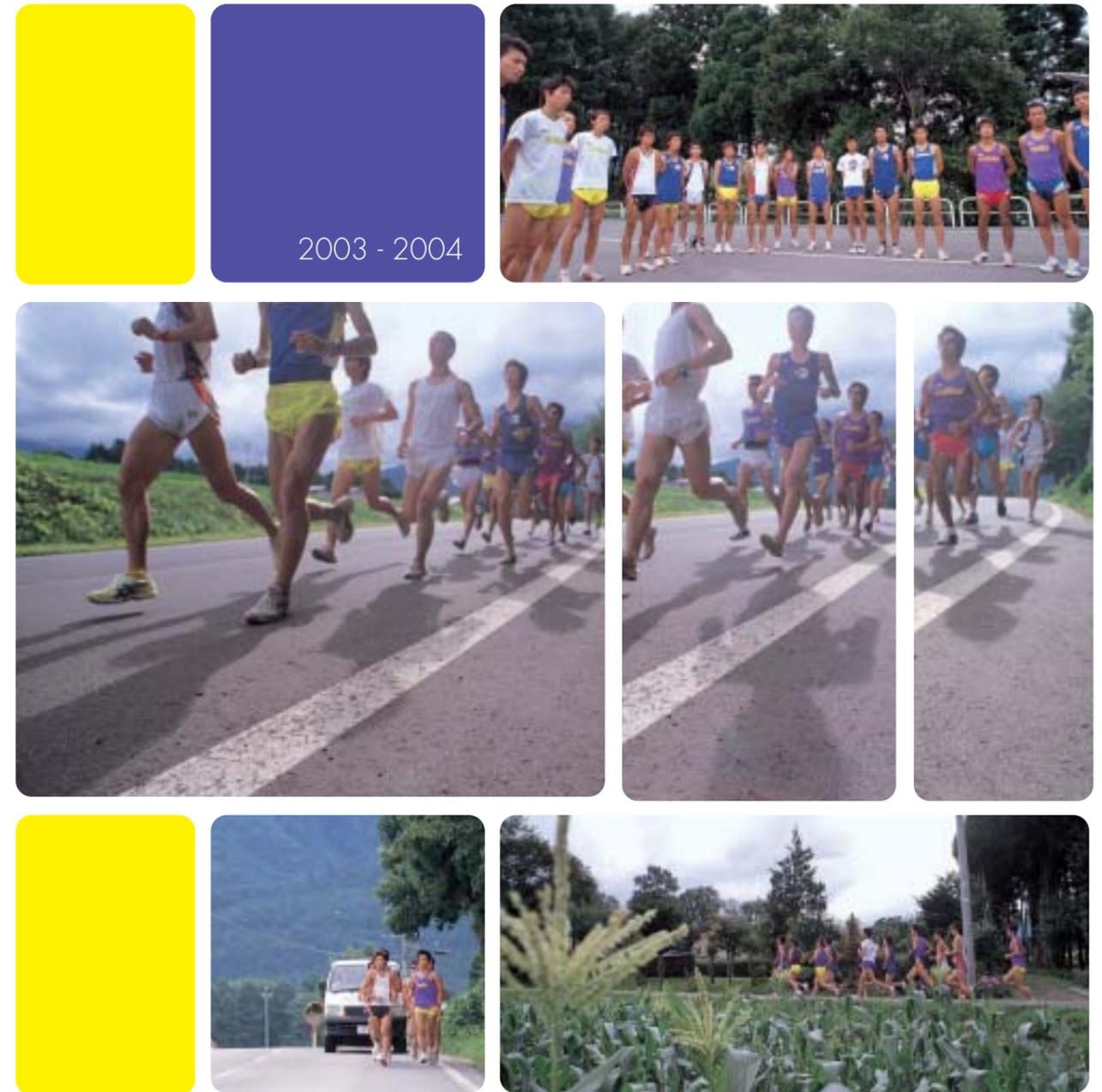
指導スタッフ

部長	阿部 悟郎	中央学院大学 商学部助教授	東京学芸大学卒
監督	川崎 勇二	中央学院大学 法学部助教授	順天堂大学卒
コーチ	尾上 岳史	中央学院大学 駅伝部コーチ	中央学院大学卒
コーチ	青木 栄	JAL AGS	中央学院大学卒
コーチ	町田 次雄	HONDA	中央学院大学卒
顧問	小林 敬和	中央学院大学 法学部助教授	順天堂大学卒

staff:
 Art Direction & Design: SHU ITO (d-room)
 Photographer: HIROMICHI NOZAWA
 Editor: AYAKO NAMBA
 Coordinator: MIE TSUKAMOTO (TOKYO HEIHAN Co., Ltd.)
 Printing: TOKYO HEIHAN Co., Ltd.

CHUOGAKUIN UNIVERSITY

2003 - 2004



学生三大駅伝出場決定!

ATHLETIC TEAM

中央学院大学 | 〒270-1196 千葉県我孫子市久寺家451 TEL: 04-7183-6501(代)
<http://www.cgu.ac.jp/>



中央学院大学陸上競技部



雑草のごとく…

黒姫合宿 / 長野・黒姫高原

この度、中央学院大学陸上競技部は
出雲駅伝、全日本駅伝、箱根駅伝と
学生三大駅伝に出場する運びとなりました。
皆様のご声援を何卒よろしくお願ひ申し上げます。

学長

大久保 皓生



来年の箱根駅伝出場のシード権を獲得して以来、出雲駅伝、全日本駅伝と三大駅伝に出場できることは、まことに喜ばしいことでもあります。選手諸君と部長、監督はじめ関係者の皆さんにこころからの敬意を表します。

紫と黄色のユニフォームが、多くの大会で疾駆する姿を私たちが見られることが、悲願でした。それがここに三度実現できることは本当にすばらしいことです。わが大学にとっても名誉なことであり、これが新しい伝統となっていく予感がします。伝統は、努力なくして創られるものではありません。登らなければ、登りつくさなければ、決して坂の上には出られないのです。選手諸君の益々の精進を祈ってやみません。

選手の善戦に期待に胸をふくらませている多くの学生諸君もまたこれらの大会を盛り上げる参加者であります。大学の旗のもとに心をひとつにして、応援してください。そこから、明日のエネルギーをもらってください。

卒業生、ご父兄、地元住民の皆様、日頃ご支援を頂いておりますが、改めて、若きエースたちにご声援をお送りください。

選手諸君、新たな道を走り抜け!!

陸上競技部 部長

阿部 悟郎



三大駅伝出場決定!

本学は、本年の箱根路から多くのことを学びました。駅伝とは、一人だけでなく、みんなで階段を登らなくてはなりません。単に10人が襷を繋ぐということではなく、全員が一丸となって心と心を繋いでいく、気持ちの繋がりがとても大切な競技です。全体的なレベルが上がり、どの大学がシード権を勝ち取るか、最後まで分からない大混戦の中でのシード権獲得は学生の大きな自信になったと思います。

出雲駅伝、全日本駅伝、箱根駅伝と学生の三大駅伝に出場という結果は、部員一人一人の努力はもちろんのこと、皆様のご協力・ご支援の賜物と深く感謝しております。

今年もいよいよ戦いの時が近づいて来ました。学生は、チャレンジ精神を忘れず、日々真剣に練習に励み、着実に力をつけてきています。もう一段飛躍するためには、まだまだ多くの面で克服すべき課題、改善すべき点はありますが、新しい顔ぶれを含めた部員一同、いっそう努力し「心と心の襷リレー」で日頃の練習の成果を発揮してくれることと期待しています。

我が中央学院大学の選手に、どうぞ暖かいご声援をよろしくお願ひします。

初出場

出雲駅伝

第15回出雲全日本大学選抜駅伝競走

平成15年10月13日(月・祝) 13:08 START

区間: 44.0km (全6区間)

最短区間: 5.0km / 最長区間: 10.2km

参加チーム数: 21チーム

学生駅伝シーズンの開幕を飾るこの大会は、島根県の出雲大社(正面鳥居前)~出雲ドームまでの6区間44.0kmを、全国から選抜されたチームと米国のアイビーリーグ選抜チームを加えた21チームによって争われる。

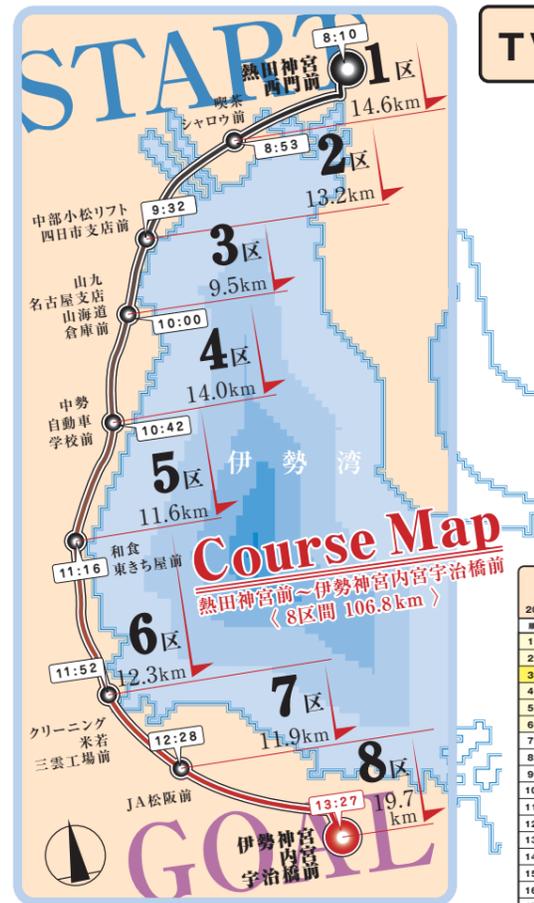
各区間の距離が短く、10km以上は最終6区のための「スピード駅伝」といわれるだけに、最終区まで大混戦が予想される。

10.13



13:30 ▶ 先頭通過予想時刻

TV中継 | フジテレビ系列26局ネットワーク
10月13日(月・祝) / 13時~15時25分



8:53 ▶ 先頭通過予想時刻

TV中継 | テレビ朝日系列25局ネットワーク(名古屋テレビ)
11月2日(日) / 8時~14時20分

第35回全日本大学駅伝 関東学連出場校

シード校	
駒沢大学	10回目
山梨学院大学	17回目
日本大学	27回目
大東文化大学	33回目
東洋大学	13回目
早稲田大学	12回目

選考会通過校	
法政大学	7回目
東海大学	19回目
中央学院大学	初出場
日本体育大学	27回目
拓殖大学	6回目
國學院大学	初出場

第35回全日本大学駅伝
関東地区選考会結果
2003年6月14日(土) / 夢の島陸上競技場

順位	大学名	記録
1位	法政大学	4:01:48.03
2位	東海大学	4:02:31.78
3位	中央学院大学	4:02:52.76
4位	日本体育大学	4:03:03.66
5位	拓殖大学	4:03:17.14
6位	國學院大学	4:03:35.38
7位	神奈川大学	4:03:52.35
8位	順天堂大学	4:03:56.37
9位	中央大学	4:04:04.41
10位	城西大学	4:06:58.03
11位	帝京大学	4:07:16.28
12位	麗澤大学	4:07:44.39
13位	東京農業大学	4:07:50.59
14位	専修大学	4:08:11.83
15位	関東学院大学	4:08:50.82
16位	青山学院大学	4:10:25.74
17位	明治大学	4:10:38.62
18位	平成国際大学	4:11:16.43
19位	国士館大学	4:11:55.43
20位	筑波大学	4:13:15.67

秩父宮賜杯第35回全日本大学駅伝対校選手権大会

平成15年11月2日(日) 8:10 START

参加チーム数: 25チーム

区間: 106.8km (全8区間)

最短区間: 9.5km / 最長区間: 19.7km

愛知県名古屋市・熱田神宮~三重県伊勢市・伊勢神宮内宮宇治橋前までの8区間106.8kmをコースに毎年11月の第1日曜日に開催。

前回大会の上位6校のシード校に加え、北海道・東北・関東・北信越・東海・関西・中国四国・九州それぞれの学連における推薦校を合わせた25校によって「真の大学日本一」を目指す。

関東学連からは、昨年のシード校6校と選考会の上位6校(別表参照)の12校が出場。箱根駅伝を占う前哨戦として熱い戦いが予想される。



出場大学		
1	北海道学連選抜	15回目
2	東北学連選抜	15回目
3	駒沢大学 [関東学連]	11回目
4	山梨学院大学 [関東学連]	14回目
5	日本大学 [関東学連]	13回目
6	大東文化大学 [関東学連]	12回目
7	中央大学 [関東学連]	15回目
8	東洋大学 [関東学連]	5回目
9	東海大学 [関東学連]	10回目
10	順天堂大学 [関東学連]	14回目
11	日本体育大学 [関東学連]	9回目
12	中央学院大学 [関東学連]	初出場
13	北信越学連選抜	15回目
14	愛知工業大学 [東海学連]	4回目
15	京都産業大学 [関西学連]	15回目
16	立命館大学 [関西学連]	4回目
17	徳山大学 [中四学連]	6回目
18	中国四国学連選抜	15回目
19	第一工業大学 [九州学連]	8回目
20	鹿屋体育大学 [九州学連]	12回目
21	米アイビーリーグ選抜	6回目

初出場

全日本大学駅伝

11.2

2年連続
5回目

箱根



写真提供：月刊陸上競技

第80回東京箱根間往復大学駅伝競走

駅伝

往路：平成16年1月2日(金) 8:00 START

復路：平成16年1月3日(土) 8:05 START

区間：216.4km (全10区間)

最短区間：20.7km / 最長区間：23.0km

参加チーム数：20チーム

東京・大手町読売新聞社前～箱根・芦ノ湖間の往復10区間216.4km(往路：107.2km、復路：109.2km)を、母校の名誉と全選手の魂が込められた襷をつなぐため、選手たちが限界を超えて激走する「箱根駅伝」。他のどの駅伝よりも道程は長く険しい。風の強い海岸沿い、標高差834mの山登りや山下りに加え、片道100kmを超えるレース中には気温や風なども変化していく。沿道の観衆も100万人を超えるまでになり、切れ目なくつつく大歓声のなかで走ることは、まさしく選手冥利に尽きることであろう。

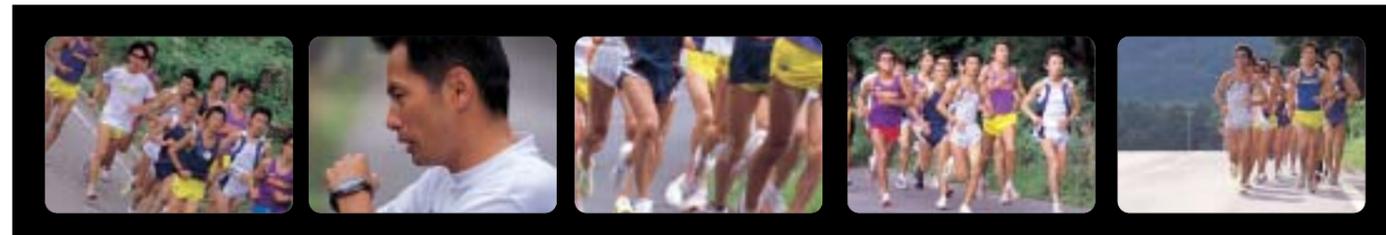
今回の第80回箱根駅伝に出場できるのは、前回大会で総合10位までに入ったシード校(別表参照)と予選会の上位6校および予選会7位以下のうち関東インカレの総合成績によって算出された獲得タイムを差し引いたタイムの上位4校、それに選抜チームの計20校。今回の選抜チームは、前回の関東学連選抜に代わり、全日本大学選抜が参加することになる。また、今年の予選会は10月18日(土)に第80回大会を記念して箱根・芦ノ湖畔で開催される。

本学は第79回箱根駅伝において総合10位となり、過去3回の出場で成し遂げられなかった念願のシード権を獲得。今大会では上位での入賞が期待される。

2004.1.2&3

TV中継

日本テレビ系列各局ネットワーク
1月2日(金) / 7時45分～14時05分(予定)
1月3日(土) / 7時45分～14時20分()



第70回大会 (平成6年1月2.3日)
総合16位 11時間38分35秒

第71回大会 (平成7年1月2.3日)
総合12位 11時間34分10秒

第75回大会 (平成11年1月2.3日)
総合13位 11時間38分18秒

第79回大会総合成績 (平成15年1月2.3日)

順位	大学名	記録
1位	駒沢大学	11時間03分47秒
2位	山梨学院大学	11時間08分28秒
3位	日本大学	11時間12分52秒
4位	大東文化大学	11時間15分15秒
5位	中央大学	11時間16分27秒
6位	東洋大学	11時間16分56秒
7位	東海大学	11時間17分05秒
8位	順天堂大学	11時間17分13秒
9位	日本体育大学	11時間17分31秒
10位	中央学院大学	11時間17分33秒

順位	大学名	記録
11位	神奈川大学	11時間17分57秒
12位	拓殖大学	11時間19分05秒
13位	帝京大学	11時間20分17秒
14位	國學院大学	11時間22分40秒
15位	早稲田大学	11時間22分42秒
16位	法政大学	11時間27分30秒
17位	亜細亜大学	11時間27分32秒
18位	関東学院大学	11時間28分37秒
19位	専修大学	11時間34分12秒
一位	関東学連選抜	11時間27分21秒

→ 総合10位・シード権獲得

主将 奥村 雄大 商学部4年 「気持ちの持ちようで強くなっていった」



写真提供：月刊陸上競技

第79回大会
7区走者

高校の時は特に強い選手ではありませんでしたが、高校時代の恩師が、大学時代に大会直前で病気になる箱根駅伝で走れなかったということを知り、僕が代わりになんとしても箱根を走りたいという思いに駆られました。それからは「箱根で走る!」、それだけを目標に頑張ってきました。

入部したばかりの頃に、大学の練習になかなかなじめず全体のペースについていけなかったり、練習の割には記録が出てない選手もいました。それでも焦らず地道な練習を続ける中で、一人が記録を出すと、それが刺激となり「同じことをやっているんだから自分も出せて当然」と、一人一人の記録が少しずつ伸びてきました。それに伴い、自然とチーム内の空気が引きしまり、はっきりと目標を持って朝練やフリーの練習に取り組むようになってきました。練習だけで

はなく、「気持ちの持ちようで強くなっていった」という感じがあります。

駅伝はただ走るだけではなく、チームを作りあげるまでの過程に面白みがあります。トラックレースやハーフマラソンと違って、自分が走って終わりではなく何区間もある分、一人がプレーキしても他のメンバーがカバーできる。そういった「チームプレーが一番の魅力」だと思います。

次の躍進へのエネルギーを蓄えて、本戦では最大限に力を発揮して自分が満足できる走りができるよう、努力を惜しまず日々練習に励んでいます。

三大駅伝に向けて…

出雲駅伝・全日本駅伝は、初出場ですので積極的に走りたいです。箱根駅伝では、前回以上の結果を目標に頑張ります。

副将 河南 耕二 商学部4年 「やれば必ずチャンスは開ける!」



写真提供：月刊陸上競技

第79回大会
4区走者

入部当初は右も左も分からない状態で、今では当たり前のようなこともできていませんでした。礼儀なども一から教わり、少しずつ生活面でも自分でできるようになることで、それが前進への原動力となり、精神面も競技面でも強くなってきたと思います。練習の質や量が上がってくると、周りのみんなから「やるぞ!」という意欲を見せられると、僕もやる気になって頑張ることができました。「こいつには負けない」といった、良い意味での競争意識も芽生えてきて、それが競技面にも影響するようになったと感じます。

僕にとって初めての駅伝が「箱根駅伝」でした。高校時代はまともに駅伝を組めなかった学

校だったので、それまで駅伝がどういうものかわかりませんでした。やはり信頼性・安定性が重要な競技だけに、いくら力があっても必ず速く走れる訳ではありません。実際に走ってみて、自分一人の力では達成できない、仲間のサポートやチームワークがいかに大事かという事を学びました。そうしたチームワークで勝ち取った三大駅伝への出場権は、チームのレベルが一段上がった手ごたえを感じています。

「やれば必ずチャンスは開ける!」本戦では、自分の力を出し切って積極的に上位を争っていかうと思います。

三大駅伝に向けて…

出雲駅伝・全日本駅伝では、箱根に繋がる走りを、箱根駅伝では区間賞を狙って全力を尽くして頑張りたい。



自分一人の力では達成できない

仲間のサポートやチームワークがいかに大事かという事を学びました…

中東 亨介 商学部3年 駅伝の魅力は「チームワーク」



写真提供：月刊陸上競技

第79回大会
1区走者

箱根駅伝は伝統があり、非常に注目されている大会なので、学生で長距離をやっているならば、最終的にはそこを目指すと思います。何と言っても一番大きい舞台ですから。

去年は4年生(特にキャプテンの福山さん)が引っばって行って、チームのやる気を起こさせ、個人の意識もずいぶん変わったと思います。周りが好タイムを出してくると、自分ももっと上を目指すようになり、結果としてチームの平均タイムが上がります。きつい練習もありますが、それを乗り越えていかないと、自力っていうのはつかないですし、それをこなすことで精神的に違ってくると思います。途中でリタイアした者はそれだけ精神的に甘いということですから。

去年は、練習が充実していてみんながしっかり走れたことで、それが自信に繋がり、チーム全体の意識を高く持たせることになったと思います。練習の段階で「狙える!」という手ごたえを感じていたので、予選会が待ち遠しく感じました。今年もあらゆる面で、チームは上昇モードに乗ってきているので、気持ちを一つにし、大舞台で次に繋がる走りが出てきたらと思います。

箱根でシードを獲得という目標を達成したので、次は5位。いや、それより上を狙っていきます。

三大駅伝に向けて…

いろいろな人達の支えがあって、三大駅伝に出場することができたので、その期待に応えるためにもさらに上を目指して頑張りたい。

陸上競技部 監督 川崎 勇二

初めて箱根駅伝に出場した第70回大会の時、スタートの前に、何とも言えない嬉しさが込み上げてきたのを思い出します。出場できない時でも、雰囲気を感じて欲しいので、箱根に部員全員を連れて行っていたんです。いつも傍観者として行っていたので、よくこの舞台に立てるようになったということにすごく感動しました。本学がスタート地点にいるという実感が初めて沸いたのです。

今回4回目で同じようなことがありました。花の2区と呼ばれる、各大学のエースが走る2区で4年生の福山君が、先行する何人もの選手を抜く力強い走りをしました。それを見て、感動して思わず車の中で涙を浮かべたことを覚えています。初出場の際は「箱根に出れた」ということに、そして今回の大会は、シードを獲得出来たこと以上に、よくこいつらが、こうやって「他の大学の選手と戦えるようになった」という意味で感動しました。

以前は部員を見て「劣等感が強い」というのをずっと感じていました。高校時代とは天と地ほど違うレベルに成長した選手が、こんなに強くなっているのに、なぜ力が発揮出来ないのか？ いつもそう思っていました。「高校時代に負けていたから、ここ(大学)でも負ける」そういう負い目や劣等感が、ここ数年ようやく取れてきて、箱根駅伝に「出たいなあ」から、「絶対に出るんだ」という意識に変わってきて、記録もぐっと伸びてきました。変わってきているのは学生の目の高さなのです。意識さえ変われば、もっと上を狙えるということが解ってきているので、みんな頑張れるわけです。土俵に立った時点で既に負けているのと勝負しに行くのでは全然違います。今までは同じ土俵に立った時点で負けていましたから。

最近、「俺等はやれる」という自身に溢れています。今の主力選手も、入部当時は名もない、何の実績もない選手でした。箱根で優勝するレベルの大学と戦っていくには、人一倍の努力と工夫が必要

です。いきなりレベルの高い練習に直面すれば、挫折感のあまりにやる気を無くすことにもなりかねません。背伸びしたり無理したりせず、自分に合ったレベルの大学を見極めていくと本人の力が発揮できるのです。スタート地点が同じレベルの者が集まり、上を目指して一緒に成長していく中で、自然に信頼関係もできてきます。

「長距離は頑張れば頑張っただけ結果が出る」。また、「チームでやることの大事さ」。その2点が私の指導の一貫した考えです。全国的に名もない選手でも、頑張れば必ず結果は出るんだということを言い続け、それが現実になってきています。また、チームでやる事の大事さというのはイコール助け合いですから、それは社会に出てからも生きることだと思っています。

私が一番やらなければならないのは、部員の性格や行動パターンを早く読み、個々に合わせた対処を考えていくということです。以前は、ただ単に怒って、厳しくしてというだけでしたが、ここ数年で話を聞いてやる姿勢が持てるようになりました。時には厳しく、時には優しく選手個々の心の状態を読み取り、モチベーションを高く持ち続けられるように接していくよう努めています。また、私自身、どの監督よりも「情熱」を持って指導する。これだけは負けないようにしようと思っています。それが無くなった時は、引退する時だと思っています。



CHUOGAKUIN
UNIVERSITY
ATHLETIC TEAM



陸上競技部 コーチ 尾上 岳史

私は高校2年生の時まで、大学で走れる競技レベルではありませんでした。それが、秋に周りも驚くような劇的な伸びをして、それで大学でも続けることに決めました。

大学4年間のうちに1回か2回、急激に飛躍できるチャンスが訪れます。それを物にできるかできないかは本人次第です。出来なかった練習が出来るようになって、それが当たり前になった時がそのチャンス物をしているということです。チャンスを掴めないと、大きな飛躍もなく、記録もあまり伸びてきません。自分の記録が伸びると言うのは、今まで勝てなかった相手に勝てるわけですから、自分自身の励みになります。チャンスを逃さないでしっかりと自分の物にして欲しいと思います。

私は大学1年生のときに、選手として箱根駅伝を走ることができ、それが続くものだと思っていたのですが、その翌年から予選会を突破できず、手の届くところにあった「箱根駅伝」が、何時しか手の届かない「夢」になっていました。私が4年生のときも、キャプテンが必死になって周りをひっぱって、予選会突破まであと少しというところまでチームを立て直しましたが、1人11秒という差で予選会を突破することができませんでした。その姿を見ていた次の学年(去年の4年)が、意気込みを引き継ぎ、チーム全体の意識が「出れたらいいなあ」

から「絶対に出る」に変わった結果、箱根駅伝に出場できたのです。

練習はここ数年同じような内容ですが、「箱根駅伝に出れたらいいなあ」といった理想論ではなく、「出れて当たり前」というように、一人一人の意識が変わり、結果もついてきました。去年は手ごたえがありました。「偶然ではなく、狙って出れた」のです。さらにシードを獲得したことで、チームの自信につながったと思います。今年のチームも、去年のチームに近いところまで来ています。箱根駅伝に参加することが最終目的ではないので、意識を高め、自分を追い込み頑張りたいと思います。

監督は厳しく、細かく選手を指導しているので、私は私の空気を大事にし、周りに流されずマイペースでやっています。頑張っただけだと押しつぶされてしまう選手もいますので、間に入り上手くワンクッションおいてきちんと説明して、選手をサポートしていけたらと思っています。

